

## 研 修 区 分 表

令和3年1月27日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通 学	通 信	実 習	計	
1 職務の理解 (6時間)	6			6	到達目標：介護職が働く現場や仕事内容を具体的に理解させる。
(1) 多様なサービスの理解	3			3	講義内容：介護保険サービス、介護保険外サービス 「演習」グループにわかれて介護をテーマにグループディスカッションを行う。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3			3	講義内容：居宅施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容、居宅施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージをつける。施設見学に行く。 「演習」介護職が働く現場や仕事の内容、サービス提供現場の具体的なイメージについてグループディスカッションを行う。
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	9			9	到達目標：自立支援・介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点を理解させる
(1) 人権と尊厳を支える介護	3			3	講義内容：個人としての尊重、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護、ノーマライゼーション、QOL、虐待防止 「演習」利用者の権利と権利擁護、権利侵害についてグループディスカッションを行う。
(2) 自立に向けた介護	4			4	講義内容：自立支援、個別ケア、意欲を高める支援 介護予防
(3) 人権に関する基礎知識	2	—	—	2	講義内容：利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由、虐待を受けている高齢者への対応方法 「演習」具体的な人権侵害の場面をもとに、介護職としての在り方を話し合う。
3 介護の基本	6			6	到達目標：介護のめざす基本的なものは何かを考えさせる
(1) 介護職の役割、専門性と他職種との連携	2			2	講義内容：介護環境の特徴と理解、介護の専門性、介護に関わる職種 「演習」チームケアについて、その重要性、役割分担、課題など、グループディスカッションを行う。
(2) 介護職の職業倫理	2			2	講義内容：介護職としての社会的責任、プライバシーの尊重・保護、専門職の倫理と意義
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1			1	講義内容：介護における安全の確保、事故予防・安全対策、感染対策 「演習」転倒のリスクとその予防のための対策、方法について検討する。
(4) 介護職の安全	1			1	講義内容：介護職の心身の健康管理、腰痛予防 感染症対策
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9			9	到達目標：利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための福祉サービスの位置づけや代表的なサービスの理解を促す。
(1) 介護保険制度	4			4	講義内容：介護保険制度創設の背景及び目的、制度の仕組みの基礎的理解、制度を支える財源

				「演習」介護保険の理念についてグループディスカッションを行う。
(2) 医療との連携とリハビリテーション	3		3	講義内容：医療行為と介護の違い、訪問看護、施設における看護と介護の役割 「演習」事例をもとに介護職と看護職の連携の在り方、方法についてグループディスカッションを行う。
(3) 障害者総合支援制度及びその他制度	2		2	講義内容：障害者福祉制度の理念、障害者自立支援制度の仕組み
5 介護におけるコミュニケーション技術	6		6	到達目標：共感・受容・傾聴的態度・気付きなど、基本的なコミュニケーション技術を学ぶ
(1) 介護におけるコミュニケーション	3		3	講義内容：利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの特徴、ロールプレイを行う 「演習」利用者の心理や利用者との人間関係を悪化させてしまうコミュニケーションとその理由について、話し合う。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3		3	講義内容：記録における情報の共有化、報告・連絡・相談の留意点 「演習」適切な記録の方法について演習を行う。
6 老化の理解	6		6	到達目標：加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について理解する。
(1) 老化に伴うこととからだの変化の日常	3		3	講義内容：老年期の発達と老化に伴う心身の変化、老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
(2) 高齢者と健康	3		3	講義内容：高齢者の疾病と生活上の留意点、高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 「演習」症状の小さな変化にどのようにすれば気づけるか、グループディスカッションを行う。
7 認知症の理解	6		6	到達目標：認知症を理解することの必要性に気付き、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解させる。
(1) 認知症を取り巻く状況	2		2	講義内容：認知症ケアの理念、認知症ケアの視点 「演習」認知症の方の心情や求めるものについて、グループに分かれて考え発表する。
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1		1	講義内容：認知症の定義、健康管理、認知症に使用される薬
(3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2		2	講義内容：認知症の人の生活障害・心理・行動の特徴、認知症の利用者への対応 「演習」認知症の方への関わり方について、グループで役割を決め、ロールプレイを行う。
(4) 家族への支援	1		1	講義内容：認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減
8 障害の理解	3		3	到達目標：障害の概念と障害者福祉の基本的な考え方について理解する。
(1) 障害の基礎的理解	1		1	講義内容：障害者福祉の基本理念、ノーマライゼーションの概念
(2) 障害の医学的側面	1		1	講義内容：身体障害・知的障害・精神障害・その他の心身の機能障害 「演習」それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を深めるよう演習を行う。
(3) 家族の心理、関わり支援の	1		1	講義内容：家族への支援、障害の理解、介護負担の軽減

理解					「演習」家族の気持ちや、家族が受けるストレスについて検討する。
9 ところとからだのしくみと生活支援技術	78		7	85	到達目標：尊厳を保持し、その人の自立を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
(1) 介護の基本的な考え方	4			4	講義内容：理念に基づく介護、法的根拠に基づき介護
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	4			4	講義内容：感情と意欲の基礎知識、ところの持ち方が心に与える影響 「演習」利用者の様子の普段との違いに気づくためにはどうしたらいいのか、グループディスカッションを行う。
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4			4	講義内容：人体の各部の名称と動きに関する講義内容：基礎知識、ボディメカニクスの活用
(4) 生活と家事	6			6	講義内容：家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活史苑
(5) 快適な居住環境整備と介護	6			6	講義内容：居住環境に関する基礎知識、福祉用具に関する留意点
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6			6	講義内容：衣服の選択、着脱、洗面の意義・効果 「実技演習」衣服の着脱の介護についての演習を行う。
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6			6	講義内容：利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、移動・移乗に関する基礎知識 「実技演習」移乗の介護、移動の介護に関連する演習を行う。
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6			6	講義内容：食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、食事と姿勢、口腔ケア 「実技演習」食事の介護に関連する演習を行う。
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6			6	講義内容：全身清拭、陰部清浄、体調の確認、羞恥心や遠慮への配慮、実技演習 「実技演習」入浴の介護、清潔保持に関連する演習を行う。
(10) 排せつに関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6			6	講義内容：排せつに関する基礎知識、身体面・心理面での意味、プライバシーの確保、トイレ介助、おむつ介助 「実技演習」排せつの介護に関連する演習を行う。
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6			6	講義内容：安眠のための介護の工夫、環境の整備、安楽な姿勢、褥瘡予防 「実技演習」安楽な姿勢、褥瘡予防に関連する演習を行う。
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	6			6	講義内容：死に向き合う心の理解、苦痛の少ない死への支援 「演習」終末期の利用者への介護職としての関わり方について、グループで討論する。
(14) 介護過程の基礎的理解	6			6	講義内容：介護過程の目的・意義・展開、チームアプローチ
(15) 総合生活支援技術演習	6			6	講義内容：事例による展開 生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。 「実技演習」事例は「高齢分野」（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から実施する。
10 振り返り (4時間)	4			4	到達目標：研修全体を振り返り、研修を通じて学んだことについて再確認を行い、研修後も継続して学習する

					姿勢を形成する。
(1) 振り返り	2			2	講義内容：研修を通して学んだこと（施設見学も含む） 「演習」研修を通して学んだことについてグループ ディスカッションを行う。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2			2	講義内容：今後継続して学ぶべきこと 「演習」研修終了後の継続的な研修の内容や方法について、 各自考えをまとめる。

※記載内容は、要綱の別紙2の内容を網羅したものとする。

※講義と演習は一体的に実施すること。なお、科目9の(6)から(11)および(15)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は30分単位とする。